

# 健康のひろば

-17-

## 地元の医師がアドバイス

腰に痛みを感じ椎間板(ついかんばん)ヘルニアという診断を受けました。手術以外に方法はないものですか。神経ブロック療法などの話も聞のですが。

(中川・農業、男 五十二歳)

☆

腰椎椎間板ヘルニアという病気は、図に示すように椎体と椎体の間にあるショックアブソーバーの役割をしている板状の軟骨が膨隆(飛び出す・出っ張る)して脊髄に続く馬尾神経や神経根を圧迫する状態を言います。最近ではMRIという装置でその病態を見るのが出来ます。

腰椎椎間板ヘルニアは、その椎間板の

膨隆による椎体や椎体の後方にある椎間関節などの不安定性による腰痛だけでなく、神経根という下肢にいく細い神経を圧迫することによる

Rテスト陽性)。また、巨大なヘルニアで馬尾神経を圧迫する場合に膀胱直腸障害が生じることもあります。

下肢症状が出現します。たいていの場合は片側のことが多い

アはまれに自然治癒することがありますが、一般的に治療としては、症状の程度

筋力の低下が起こります。ヘルニアの位置によってその症状は異なり、下位に行くほど末梢の知覚異常となり、足首や足趾の背屈力が低下してスリッパが脱げてしまったりします。その他の症状として、膝蓋腱反射やアキレス腱反射の低下、膝を伸展して下肢を牽上していくと途中で腰・殿部・下肢痛のために足を上げていくことが出来なくなり(SL

を考えない保存的治療を行います。椎間板はショックアブソーバーといいますが、立ったり・座ったりしては患部の安静がとれませんので膝を曲げた姿勢での臥位が必要となります。薬物療法やコルセット、通院での理学療法などで効果のない場合は、約三週間のベッド上の腰椎牽引を行うことが多いです。その間に硬膜外ブロックと

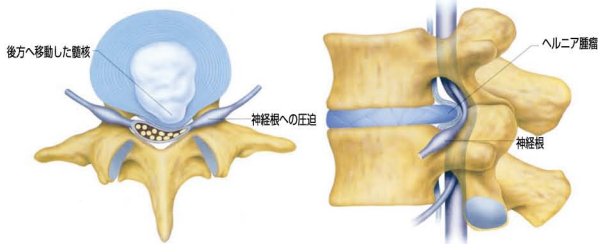
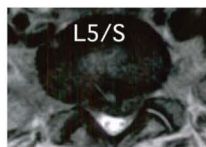
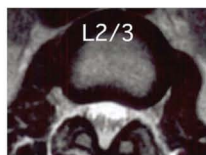
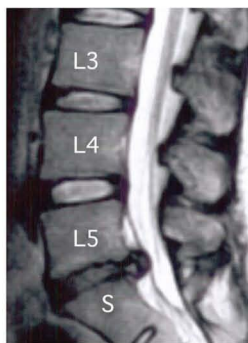


図.腰椎椎間板ヘルニアの病態とMRI検査

いって患部に局所麻酔薬や神経の腫れをひかせる薬を注入することがあります。

となることがあります。手術的治療としては、①手術による脱

入院後約四週間で現職に復帰出来ない場合、または症状が改善して一時退院できても再入院をしなければならぬようなときは手術適応と考えられます。また、はじめから極度の腰痛、膀胱直腸障害、下肢の筋力低下の高度な場合は手術適応

出椎間板の摘出、②腰椎の不安定性を解消させるための脊椎固定術があげられます。最近では、経皮的に小さな傷で椎間板を焼灼したり、椎間板を焼灼して縮小させるといった方法もあります。

(医療法人社団 名寄中央整形外科院長・坂田 仁) イラストは矢部裕監修の「イラストで見える腰痛症」から引用しました。MRIの写真は当科の症例です。



## 腰の痛みとヘルニア